

【実践報告】

教育実習Ⅳ（中・高）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 岡 利 道
教授 石 原 義 文
教授 笹 原 豊 造
准教授 猪 川 優 子

1 はじめに

観察実習を主体として実施される教育実習Ⅳは、教育実習Ⅴ・Ⅵに臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。実習に向けての心構え、観察実習の視点、指導案の作成の仕方などを学修する中で、自らが取り組むべき課題を明確にしていく。

これらの目的を達成するために、当初は広島大学附属中・高等学校および広島大学附属東雲小・中学校での研究大会において、中・高の実際の授業を観察して、教育実習で取り組まなければならない問題を把握し、その解決策を具体的に考えるよう計画していた。

しかしながら、前年度も同様であったが、コロナ禍の影響により、内容を変更せざるを得なかった。そこで、担当教員4名で協議をし、本年度も代替メニューにより展開することとした。基本的に、本学附属高等学校での観察実習を中心に据え、それ以外の本学における授業は、国語コースがコース授業形式（水曜3コマの時間帯）、英語コースがワークショップ形式により行った。具体的には、次の「2. 実習の概要」に示す。

2 実習の概要

(1) 国語科

活動項目	活動内容
広島県立可部高等学校 3年生 11月9日(水)	授業観察 5限 総合的な学習の時間 黒瀬 直美 先生 生徒たちの各グループがそれぞれのテーマで探究学習 6限 2年「古典B」 黒瀬 直美 先生 漢文 「鴻門之会」 授業研究協議会 5限・6限の各授業について
広島文教大学附属高等学校 3年生 11月30日(水)	授業観察 5限 「現代の国語」1A 石川 雅意先生 評論 「美しさの発見」 6限 「古典B」3E 鹿嶋 舞先生 古文 『無名草子』 授業研究協議会 合同で開催

定時の学修	ガイダンス 観察実習の心得についての学び 授業研究についての学び 教育実習学修記録（个体史）についての学び 可部高等学校実習に向けての事前・事後学修 附属高等学校実習に向けての事前・事後学修 学修全体の振り返り
-------	---

(2) 英語科

活動項目	活動内容
広島文教大学附属高校 11月30日（国語科に同じ）	授業観察 5限 「英語表現Ⅱ」2A 井上 尚子先生 6限 「英語コミュニケーションⅠ」1A 仁井谷 友果先生 授業についての意見交換会
指導技術ワークショップ 12月5日	1. Classroom English 英語で授業を行うために必要な知識・技能を修得することを目的とする。 2. 音声指導の基礎と音声指導の実際 英語の音声の特徴（リズム、弱化、短縮など）を理解し、指導に活用する技術を修得する。 3. Small Talk & Oral Introduction 音声への関心を高めるために有効な指導技術の中で、Small TalkとOral Introductionについての理解と指導技術を修得する。 4. 発問の仕方 授業の重要な構成要素である発問とは何かを考える。生徒に主体的で深い学びを促す発問に必要な技術を修得する。
指導技術ワークショップ 12月12日	1. コミュニケーション活動（Communication Activity）の作り方、進め方 教室内に擬似コミュニケーション場面を作って、自己表現から言語材料の定着に向かうために、どのような活動が望ましいか考える。 2. ICT機器を使った教材開発 ICT機器を利用して、どのような教示が望ましいのか吟味し、教科書の内容を膨らませる教材作りを行う 3. 学習指導案の作成 学修してきたこと元に、指導と評価の一体化を意識して、指導案作りを行う。 4. 模擬授業 学修したことを模擬授業に活かし、互いの批評を元に改善を行う。
指導技術ワークショップ 12月19日	1. 模擬授業 全員が模擬授業を行う。学修したことを模擬授業に活かし、互いの批評を元に指導案と指導技術改善を目指す。

3 おわりに

ここでは、本実習科目における学修のまとめとして、成果と課題を述べることにしたい。

成果としては、やや形式的なことになるが、学生諸君にとってより学修に取り組みやすくなるように、前年度の振り返りにおける反省点、即ち観察実習（各学校）のスケジュール、内容、服装等の留意事項などを早めに伝えるということができたこと（改善できたこと）である。また、メインの一つである本学附属高等学校観察実習の充実という面では、国語科・英語科とも事前・事後学修を丁寧に行い、当日も観察態度に留意することができ、授業研究協議会での積極的な質問も多く見られたように感じている。

課題としては、国語コースと英語コース間の情報交換の促進、国語コース生と英語コース生との実質的な交流の促進が挙げられるだろう。教育学科の中等教育専攻に集う仲間として、たった二つしかないコースのことであるから、もっと相互の頑張り伝え合い、また悩みなども教科の垣根を越えて話し合っていたらと思う。もちろん、初等教育専攻生の内でも、この科目に加わっている学生もいることから、その学生諸君も同じ仲間として含んでいることは言うまでもない。